

区分	・文化審議会における意見(H28.3、H28.11) □文化団体・ボランティア・NPO等のアンケート調査結果	中間報告案への反映(例) ◎基本目標 ■施策の方向性 ○重点施策 ※その他
県民の文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の誇るべき文化を県民の暮らしの中に上手に組み込み、富山の文化の中で人を育てていくことを考えるべきである。 ・ 日常生活の中に文化性を取り入れることを推進することが裾野を広げる意味で大変重要である。 □ 富山の文化が県内外の多くの人に評価、発信されるために必要なこと 県民が「富山の文化」に関心を持ち、その良さに気づき、誇りを持つこと 19.3%	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふるさと教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 富山の豊かで美しく、かつ厳しい自然・風土に育まれたふるさとの歴史や産業、くらしの特徴等を学び、理解を深める機会の充実に努める。 ○ 富山の魅力を知る・学ぶ機会づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民や県外の多くの人々に、富山の伝統文化や新たな文化の隠れた魅力・知識をはじめ、とやまの自然、文化、伝統、産業等の幅広い魅力を再発見してもらう機会として、郷土を題材にした検定等の取組みを推進する。 ・ 富山県の雄大で美しい自然の中で、質の高い学びと楽しみを提供することにより、自然、歴史文化、食など本県の様々な魅力を知るきっかけづくりとし、「とやま夏期大学」を開催する。 ○ むぎや、こきりこ、おわらなど貴重な伝統文化の発掘と発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ 富山県が有する特色のある・・・生活文化などについて、できるだけ多くの県民の理解を深め、再認識に努めるとともに、広く発信を進める。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの時に、芸術に触れる、鑑賞する機会をできるだけ増やしてほしい。 ・ 子どもによりよい文化を伝えるべきである。子どもは学んだことを家庭に持ち帰り、大人に教えてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> 次世代を担う子どもたちの豊かな人間性と多彩な個性を育むため、子どもたちが質の高い文化に触れ、文化活動に参加し、文化を通じて人と出会い、交流し、一緒に力を合わせるなどかけがえのない体験をする機会をつくる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが一流の音楽家の演奏や舞台を鑑賞する機会がもっとあればよい。「一流」とは技術だけでなく、人間的魅力も。クラシックの演奏を聴くときは、作曲家の話やその曲ができた背景などを、事前に音楽や歴史の時間に学習しておくことと聞く姿勢も違う。鑑賞会だけの単独の行事ではなく、他の知識とのつながりを持たせることが大事である 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 若手芸術家の育成 ・ 地域の多彩な子どもの芸術文化活動や一流音楽家による小学校での出前コンサートを支援 ○ 学校教育における文化活動の充実と地域における文化活動への理解の促進 ・ 学校との連携による鑑賞体験教室やコンクールの実施を支援する。 ・ 文化団体、文化施設、大学との連携を図るとともに、子どもたちが校外、地域における文化活動に参加することへの理解を促進する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもに一流の芸術の鑑賞機会を作るのであれば、興味を持って見られるようにするなど、それを活かす方法も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 双方向の芸術文化体験と交流の機会の充実 ・ 富山県美術館では、創作体験ができるアトリエやギャラリーを活用し、県内外の一流の作家を講師としたワークショップの開催や作品展示をするなど「見る、創る、学ぶ」といった双方向の美術体験の機会の充実を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの芸術活動については、親の支援も大事であり、家庭のあり方や社会の仕組みを変える必要が文化振興の根底にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動 <ul style="list-style-type: none"> 学校、家庭や地域社会において、子どもたち、青少年が文化活動に対して興味を湧くような環境づくりを工夫することが求められる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化活動を推進する企画を担当する専門家を配置して裾野を広げ、地域ぐるみで文化性を高めていくことが文化性の高い県民、富山県をつくることになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県民の文化活動への参画の促進 ・ 地域の人が核となった施設の利用、活用のための委員会を設置すること等を通じ、地域の人々の知恵の活用を促進する。 ○ 指導者の確保と養成 ・ 専門家(芸術文化アドバイザー)を学校や地域に派遣し子どもや指導者への助言・指導 ○ 地域の文化資源を活かしたにぎわいづくりの促進 ・ 地域で育まれてきた文化資源と、まちづくりの活動をコーディネートする人材の育成を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ アーツカウンシル(行政と距離を置いた専門家らによる第三者機関が助成対象を審査して助成先を決め、助成先その後の活動を評価する。国内では文化庁や東京都などで取り組みを始めている。)の設置や障害者アートの重点化など国の文化力プロジェクトの推進を念頭に置くべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ※多様な主体による連携・協働の仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> 文化審議会や有識者並びに県民世論調査等により多様な意見の反映に努める。 ・ 文化審議会において、文化事業の効果の把握に努め、各施策を評価し、事業計画に反映する。 ・ 文化団体、文化施設から意見を随時聴取し、事業や施設の運営について、現地で状況の把握を行い、文化施設の運営や文化事業の評価に対する意見を集約する。 ○高齢者、障害者等の文化活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者文化育成事業を通じて、文化団体との連携・交流を促進する。 ・ 障害者の文化活動の場の整備や、文化芸術に関する情報提供、障害者の主体的な文化活動の支援等に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政、民間、報道機関の3つの主体が非常にうまくかみ合っていること、流派を越えたコラボレーションが行われていることが、本県の大きな特徴である。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 多様な主体による連携・協働の仕組みづくり ・ 県民主体の文化に関する鑑賞、参加、交流及び創造の機会を拡充するため、県民や芸術家、芸術文化団体、NPO、行政など地域社会を構成する各主体がそれぞれの役割を担い、連携・協働して事業を展開する。
	<ul style="list-style-type: none"> □ 日常的な活動の場所や発表の場所についての要望 施設使用料の低減や無料化 48.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表の場・批評の場の確保 ・ 文化ホール等の無料スペース等を活用した発表の場の確保、専門家による指導・批評の場の確保などにより技術の向上を支援する。 ○ 美術、音楽、演劇などの練習の場の確保 ・ 施設の練習専用利用のための利用時間の延長や使用料の減額などを行う。 ・ 地域の余裕施設、空きスペースを練習に活用する取組みを推進する。

区 分	<ul style="list-style-type: none"> ・文化審議会における意見(H28.3、H28.11) □文化団体・ボランティア・NPO等のアンケート調査結果 	<p style="text-align: center;">中間報告案への反映(例)</p> <p style="text-align: center;">◎基本目標 ■施策の方向性 ○重点施策 ※その他</p>
文化施設	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県美術館について、今、日本にとっても有名な作品が集まる傾向にあり、そういうものの巡回展も含めて、大きな展開を期待する。 □美術館・博物館や文化ホールなどの文化施設への要望、活性化策 企画・展示内容の充実や自主公演制作などソフト面での充実 21.3% 誰もが気軽に立ち寄れる雰囲気づくり・工夫 12.8% ・富山県美術館の収蔵品の素晴らしさを、新しくなることをきっかけに広く県民に知ってもらい、足を運んでもらうようになるとよい。「なんも無いちゃ」が口癖の県民が「美術館に行けば、すごいものがある」と言えるように。 ・高志の国文学館では、いいイベントをやっているが、若干マスコミへのアピール度が弱いかなという気がしており、検討いただきたい。 ・美術館や文学館は敷居が高いため、家族で子どもと一緒に気軽に訪れたいような場所になるため、SNSやフェイスブック、ホームページ等でのPRなど、今の若い世代が情報をキャッチしやすいような仕組みにもっと取り組んでいただきたい。 □今後希望する文化活動に関する情報の収集・発信方法 インターネット(ホームページ、メール、SNS等) 55.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 青少年の芸術鑑賞、体験事業の充実 ・ 学校や地域での優れた美術作品の巡回展示、文化ホールからの出前公演・・・などを開催する。 ※ 引き続き、各館において、魅力ある企画展示、教育普及活動、双方向の芸術文化体験や新たな交流の場の創出など、ソフト面を充実させることを通じて観覧者の増加を図っていくことや効果的な広報宣伝等の工夫が必要である。 ○ 県民の文化活動への参画の促進 ・ 県民又はそのグループが自ら企画し、運営する文化事業を促進する。 ○ 最新の情報通信技術を使った鑑賞の充実 ・ インターネットやケーブルテレビ等に加え、フェイスブック等のSNSも活用し、文化施設の催事、活動のPRを充実する。 ○ 新しいメディア等を活用した文化の発信 ・ 各種報道機関との連携強化により、文化の発信を促進する。 ・ インターネットやSNS等新しいメディアを活用したPRを促進するとともに、テレビ、ラジオ、CATV等との有機的な連携を図る。
次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県美術館について、小さな子どもたちこそ、こういう素晴らしい刺激の中で、美しいものに感動する機会を多く作るために、美術館が大きなきっかけになってくれれば、と期待する。 ・今の若い世代は、鑑賞はいいが、創造活動に取り組もうとする気持ちが薄れているように感じており、富山県美術館などで子どもたちが創造活動を体験し、そこから発展していけばよい。 ・子どもたちの文学に関する活動について、高志の国文学館の館内での子ども向け企画に加え、ミニ講習会などのアウトリーチを実施してほしい。 ・積極的に創造力にあふれる学生の力を生かしていくために、県は大学ともっと様々な形で連携できるのではないか。 ・他県から来ている大学生たちに、富山の文化に触れてもらい、外に発信したり、地域の人と関わったりしてほしいと考える。 ・子どもたちは忙しいので、学校行事等で出かけて文化等に触れ合う機会を増やしていくことも必要である ・幼少期や小・中学校の時期に文化活動に深くかかわるという体験をさせることが必要であり、学校で、鑑賞だけでなく創造活動も含めて、文化活動に触れる機会を確保することの体制の整備をしていただきたい。 ・子どもの頃から日常的に伝統文化の継承に関わることが大切で、それには、まず学校教育での関与と学校の理解が大切である。 □出前公演や校内での指導、校外活動などに対する学校の理解・協力体制が課題 35.1% ・子どもに素晴らしい体験をできるチャンスをつくることは大人の責任である。学校の先生も一緒に楽しんで参加できる機会をつくることができればよい。 ・音楽の学生たちが県内の学校にアウトリーチに出ているが、学校により受入れの温度差がある。多くの学校から、来てほしいという声が聞けるようにしていただきたい。 ・放課後の文化部活動に、専門的な指導や準専門的な指導をしていただける専門家、指導者の不足という問題がある。スポーツエキスパート制度のような専門家を呼べる制度が文化にもあるとよい。 ・芸術文化の専門家を学校の部活動に呼べるシステムの導入を切に望む。 □団体の文化活動の向上に必要なこと 会員(若い世代)の増加、後継者・次代の担い手の確保・育成 43.3%、 会員の技術・資質の向上 15.0%、指導者やリーダーの確保・育成 10.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 青少年の芸術鑑賞、体験事業の充実 ・富山県美術館では、小学生については、絵画に興味を持ってもらえるような親子向けワークショップの実施や、学校単位での団体鑑賞、アトリエを活用した実技講座の開催、中学生・高校生については、美術部等の生徒の団体鑑賞や実技講座等の実施、特別支援学校については、時間帯に配慮し、ボランティアの協力による十分な受入れ態勢の整備など、これまで以上の教育普及活動を展開する。 ・富山県美術館では、デザイン性の高い遊具を配置した「オノマトペの屋上」で子どもがアートとデザインを体感できる機会を提供する。 ・富山県美術館を子どもや若者が、親しみやすく訪れやすい場とするために、魅力あるレストランやカフェ、子どもの想像力を涵養する玩具や、若者の創意のきっかけとなるような専門書籍などを扱うミュージアムショップなど楽しい空間を活用する。 ○ 巡回展示や出前公演等による鑑賞機会の充実 ・出前公演など、アウトリーチ事業を通じて、文化施設へ足を運んでもらうための普及事業を推進する。 ○ 学校教育における文化活動の充実と地域における文化活動への理解の促進 ・文化団体、文化施設、大学との連携を図るとともに、子どもたちが校外、地域における文化活動に参加することへの理解を促進する。 ○ 地域の文化資源を活かしたにぎわいづくりの促進 ・地元企業、大学、商工団体等が連携して進める文化を活かした中心市街地の賑わいづくり・・・等を支援する。 ○ 学校教育における文化活動の充実と地域における文化活動への理解の促進 ・学校教育における、美術館、博物館の利用と連携の取組みを促進する。 ・富山県美術館では、県内の小学生を招待し、美術の面白さを体験する対話型鑑賞授業等を実施するとともに、これまで以上に学校教育との連携を強化するための教員を対象とした見学会の開催や、環水公園のイベントとの連携などの地域との連携強化を図る。 ・学校との連携による鑑賞体験教室やコンクールの実施を支援する。 ・学校巡回劇場開催への支援を通して、芸術鑑賞能力の向上や豊かな情操を育む機会を提供する。 ・中学校総合文化祭や高等学校総合文化祭をはじめとする中学校や高校の文化部生徒の発表や交流の機会を充実させ、文化活動の参加意欲の向上と裾野の拡大を図る。 ・プロの演奏家による吹奏楽の技術指導の場を設け、演奏技術の向上に取り組むなど、感性と創造性を育む活動を推進する。 ・文化部活動に地域の優れた芸術文化の指導者を派遣することを検討する。 ・芸術文化の全国大会に出場する生徒に対する支援や芸術・文化・科学等の様々な分野で優れた成果を収めた児童生徒への顕彰等により、文化活動に取り組む個人や団体の活動を推奨する。 ・文化団体、文化施設、大学との連携を図るとともに、子どもたちが校外、地域における文化活動に参加することへの理解を促進する。 ○ 指導者の確保と養成 ・芸術文化指導者招へい事業により、国内外の優れた講師による指導で、舞台芸術分野の発表の成果も上がっているため、引き続き支援する。 ・芸術文化アドバイザー制を活用して、地域の活動に対する指導の充実を図る。

区 分	<ul style="list-style-type: none"> 文化審議会における意見(H28.3、H28.11) □文化団体・ボランティア・NPO等のアンケート調査結果 	<p style="text-align: center;">中間報告案への反映(例)</p> <p style="text-align: center;">◎基本目標 ■施策の方向性 ○重点施策 ※その他</p>
世界への文化の発信	<ul style="list-style-type: none"> 利賀で、海外からの若い方に長期滞在していただけるものを、もう少し工夫していただきたい。 利賀以外の富山の文化にも触れる機会になるので、海外からの若い方の受入れも積極的に考えていければよい。 プロではSCOT、利賀があり、アマではPATがあるというような強調の仕方もあるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アジア諸国の舞台芸術機関との連携による共同制作・人材育成事業の充実 ・ 成長著しいアジア地域との交流が活発化しており、文化芸術を通じた地域間連携を進めるため、アジアをはじめ世界各国との国際文化交流を積極的に推進する。 ◎ 質の高い文化の創造と世界への発信 ■ アジアを代表する舞台芸術の拠点づくり 優れた舞台芸術の創造と人材の拠点づくりを進め、富山が世界の文化の交流拠点となるよう努め、富山で創造された新たな文化を世界へ発信する。 「舞台芸術特区TOGA」の世界に誇ることのできる舞台芸術の専用空間を活用した世界最高水準の舞台芸術の創造と文化交流事業を推進し、利賀をアジアを代表する舞台芸術の拠点とする。 ■ 特色ある国際的な文化振興事業の展開と発信 地域における文化振興により世界との交流を推進し、友好と平和に貢献する。 (例)世界ポスタートリエンナーレトヤマ、工芸(KOGEI)の魅力の世界への発信、とやま世界こども舞台芸術祭等芸術団体等
	<ul style="list-style-type: none"> 利賀で、演劇だけでなく、経済や社会など幅広いことを教えていくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アジア諸国の舞台芸術機関との連携による共同制作・人材育成事業の充実 ・ 利賀の文化的・芸術的空間の魅力を、より多くの人が知り得る機会を創出し、合わせて国際的で幅広い視野を持った文化的人材を育成する。
	<ul style="list-style-type: none"> 利賀で、子どもたちが外国人と接する機会を作るべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 若手芸術家の育成 ・ 次代の舞台芸術を担う才能の発掘・支援のため、利賀演劇人コンクールを開催し、世界に通用する演劇人の育成を行うとともに、中高生の参加による演劇の創造、高校生への演劇指導等を行い、次世代の育成を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> 文化は常に世界を開く窓でありたいと考えており、そうした計画であればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 質の高い文化の創造と世界への発信
	<ul style="list-style-type: none"> デザインを重視していることを日本中や海外に向けて発信するとともに、ここに来ないと体験できないもの、ここに来て初めて分かるものを一方で作っていくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アートとデザインをつなぐ場の創出 ・ 富山県美術館では、…新しい時代に対応するためにデザインの視点を積極的に取り入れ、人々とアートやデザインをつなぐ場となることを目指す など ○ 世界ポスタートリエンナーレトヤマなどの国際事業の開催 ○ 国際イベントの開催など工芸(KOGEI)の魅力の世界への発信 ・ デザイン性の高い工芸品等を中心とした伝統工芸品展示会を開催するなど、本県の伝統的工芸品の魅力を海外に発信する。 ○ 文化力を活かした伝統産業・クリエイティブ産業の振興 ・ 県総合デザインセンターを中心とした商品の共同研究・開発や、大学、産業支援機関、各種団体等との連携の強化により、商品企画開発から販路開拓まで、総合的に支援する。 ○ 文化力を活かしたものづくり産業の高付加価値化 ・ 機能性・デザイン性に優れた商品として「富山プロダクツ」に選定された県内製品について、国内外への幅広いPRや販売促進などの支援を行う。
伝統文化の掘り起こし、活用と発信	<ul style="list-style-type: none"> 大伴家持だけをどんどん引っ張っていくことが、どれほど富山の地域や人に働きかけられるのか探してほしい。 大伴家持のことを全く知らない人が5分の1もおり、もっと普及すべきである。 大伴家持では、宮城県の大賀城市など他の家持関係の地とも連携していけば、もっと影響力がある。 大伴家持など、我々自身が気付いていない、これまでの時代の素晴らしい偉人の顕彰・追慕を行うことは、世界に対するアピール度も強く、非常にいいことである。 県内の素晴らしい眺望や散村景観などの原風景を維持していくことが大変重要である。 富山らしさ、富山でないと見られないものを重点的にブラッシュアップして、県外はもとより世界中に発信する必要がある。 □国内外に誇ることのできる文化の「宝もの自ら評価して、地域づくりに活かすために必要なこと 外部の視点も活用した地域住民による「宝もの」の再発見、再認識 28.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふるさと教育の推進 ・ 越中万葉や大伴家持を知り、学ぼうとするきっかけとするため、県内に残る家持の伝説等を網羅した家持資料本を作成するほか、大伴家持生誕1300年記念事業の推進による家持の普及啓発と顕彰、越中万葉に関するイベントや企画展の開催によりその魅力を全国に広く発信し、県外からの来訪を促進する。 ・ ふるさと富山を支えてきた人々の功績を紹介し、先人の生き方を学び、子どもたちが郷土への愛着や誇りを育めるよう取り組む。 ○ ふるさと文学の振興と発信 ・ 世界及び富山の詩や歌などを表彰する「大伴家持文学賞(仮称)」により、県内外や海外も含め、積極的に大伴家持や越中万葉の魅力の発信に取り組む。 ○ 地域の個性を活かした景観づくり ・ 砺波平野の散居景観など地域の誇りとなる景観を次世代へ守り伝えるための住民による保全活動を支援する。 ◎ ふるさとの歴史・文化の再発見と発信 国内外に誇れる、富山の豊かで美しく、かつ厳しい自然・風土に育まれたふるさとの歴史や地域文化に県民が自信を持ち、できるだけ多くの県民がその発信の担い手となるよう努める。 ○ 文化を活かした観光の振興 ・ 全国的なアピールが可能でありながらそのポテンシャルが十分活かされていない文化資源について、富山ならではの観光資源として発掘し、ブラッシュアップを図るとともに、近隣の観光資源や他の文化資源との組み合わせにより新たな観光モデルコースの開発・PRに取り組むなど観光活用を図る。

区 分	<ul style="list-style-type: none"> ・文化審議会における意見(H28.3、H28.11) □文化団体・ボランティア・NPO等のアンケート調査結果 	<p style="text-align: center;">中間報告案への反映(例)</p> <p style="text-align: center;">◎基本目標 ■施策の方向性 ○重点施策 ※その他</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化・伝統芸能の衰退が著しい。 □国内外に誇ることのできる文化の「宝もの自ら評価して、地域づくりに活かすために必要なこと地道な活動の継続などによる「宝もの」の保存や担い手の育成、継承 26.0% ・地域に愛着を持たせるため、祭りや地域の行事に積極的に参加する機会をつくる必要がある。 ・県内の各地域のお祭りを一体的に情報発信できれば、強いものになる。 □富山の文化が県内外の多くの人に評価、発信されるために必要なことメディアの活用やホームページなどによる情報発信の強化 29.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ○ むぎや、こきりこ、おわらなど貴重な伝統文化の発掘と発信 ・ 富山県が有する特色のある歴史、伝統文化、伝統工芸、生活文化などについて、できるだけ多くの県民の理解を深め、再認識に努めるとともに、広く発信を進める。 ○ 世界文化遺産の保存・継承と新たな登録をめざした取組み ・ 世界に誇る文化遺産を次代へしっかりと継承するため、保存修理事業の支援等とおした後継者の保存意欲の向上や、文化財ボランティアなど伝統文化を保存・継承する人材の育成・確保に努める。 ○ 伝統文化への参加と体験の機会の確保 ・ 地域で子どもたちが将来にわたって継承し、発展が図られるよう、小さいときから地域に伝わる年中行事、伝統文化に参加したり、体験する取組みを進める。 ・ 学校、地域において子どもが地域の伝統文化を体験する場の確保に努める。 ○ 歴史と文化を活かしたまちづくりの推進 ・ 歴史的建造物や街並み、伝統芸能をはじめとする歴史的・文化的な地域資源を活用した、地域づくりの取組みを積極的に支援し、地域の活性化を図る。 ※ 文化振興と観光振興の連携 ・ お祭りなどの行事をできる限り、土曜日・日曜日に開催するなど、観光客が訪れやすい環境整備を検討することも重要である。 ○ 新しいメディア等を活用した文化の発信 ・ インターネットやSNS等新しいメディアを活用したPRを促進するとともに、テレビ、ラジオ、CATV等との有機的な連携を図る。
文化と産業の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理系が与えられた目標を実現することは大事だが、多様な価値を考える力は文化の方にあり、この力を大きく膨らませるとともに、両方が融合していくことが大切である。 ・ 文化観光について、特に衣食住の文化とそれを使用する晴れの場であるお祭りなどは富山の文化そのもの。これらを、特にインバウンドに向けて、どのように発信するか、興味を持ってもらうか、石川県、金沢と違った素晴らしい分野を磨きこんで、それをきちんとまとめて発信できるかということが、文化振興計画の中にあってもいいのではないか。 ・ 食については、見て食べるだけでなく、情報があればこそ、おいしさも倍増する。単に素材がいいだけではなく、富山の料理の思想をパンフレットや広報誌の中に入れて、さらに美味しさが増加する。 ・ せっかくお祭りに来ても、食べるところがなかなか無い。お祭りへの参加や見学だけでなく、食というところにつながっていくと意義がある。 ・ 祭りには、おもてなしの食が必ずついて回るので、祭りの時だけでなく、通年で提供できるような体制になれば、大勢の人を呼ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 『新たな価値の創造』 県民が元気にいきいきと暮らしていくためには、ものの豊かさを追求する経済力に併せて、文化の力で心の元気を生み出すこと、経済と文化が相互に作用して新たな価値を創造することが重要である。 ○ 文化を活かした観光の振興 ・ 本県の歴史ある伝統文化や工芸品など、富山ならではの文化資源を活かした魅力的な観光商品づくりを推進する。 ・ 旅行ガイドブックや訪日観光客向けウェブサイトなどを活用した効果的な欧米等への情報発信に取り組むほか、多言語表記・ピクトグラム(絵文字)によるパンフレットやサインの整備、グローバル化に対応した次世代の観光を担う人材の育成を進める。 ○ 食や食文化のブランドイメージの向上・定着 ・ 「ミシュランガイド富山・石川(金沢)」特別版や、「ゴ・エ・ミヨ東京・北陸2017」などを活用し、県内の魅力ある料理店・レストランや、富山の新鮮で多彩な食の魅力を、全世界に向けて発信する。 ・ トренд情報の発信地東京で、広く民間企業と連携した食材の提供、オリジナルメニューの作成によるPR等を推進するとともに、日本橋とやま館の活用などによる富山県推奨とやまブランドのPRに努め、季節に応じた富山の食の魅力を全国に発信する。 ○ 文化を活かした観光の振興 ・ 伝統文化の観光への活用にあたっては、地域の受入能力を勘案したうえでその受入能力の拡大を図るとともに、通年観光の推進や、地域の祭りを楽しむ部分と観光のすみ分け、域外の人への見せる場の確保、食の提供体制などを検討する。
文化を活かした地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北陸新幹線の開業で、文化を軸にして産業経済構造が変わっていくきっかけがある。 ・ 文化芸術から他の分野と連携していくという広がり意識していけば、地方再生により接近しやすくなる。 ・ 文化芸術の創造性を都市や地域の再生、過疎の克服に生かすなど、文化芸術を起爆剤として地方創生を実現していくべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 文化と他分野の連携 ■ 文化振興と観光振興 ■ 文化を活かしたまちづくり・地域づくり ■ 豊かな食の磨き上げとブランドイメージの向上 ■ 文化力を活かした産業の振興